

PRIMERGY

B7FY-0721-01



PRIMERGYシリーズ

取扱説明書

リモートサービスボード搭載キット
(PG-RSBOP8)

FUJITSU

はじめに

このたびは、弊社のリモートサービスボード搭載キット PG-RSBOP8（以降、本製品と記述）をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

本書は、本製品の取扱方法を説明しています。

本書をご覧になり、本製品を正しくお使いいただきますよう、お願いいたします。

2002 年 12 月

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

当社のドキュメントには「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright © FUJITSU LIMITED 2002

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の冒頭の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本製品をお使いください。また、本書は、本製品の使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。本書では、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印として、以下のマークとともに表示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

■万一、異常が発生したとき



プラグ

万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。

■ACアダプタの使用環境条件について



温度

リモートサービスボードに添付のACアダプタは、サーバ本体の動作状態（動作時・休止時）にかかわらず、周囲温度が0～35℃の環境を守ってご使用ください。特に夏場は、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が35℃を超えないようにしてください。温度条件が守られないと、火災・故障の原因となります。



感電

本製品をサーバ本体に着脱する際には、安全のためサーバ本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。ACアダプタの電源プラグもコンセントから抜いてください。電源をいれたまま本製品の着脱を行うと、装置の故障・発煙などが起こる可能性があり、また感電の原因となります。

禁止

- ・ 本製品は精密に作られていますので、高温・低温・多湿・直射日光など極端な条件での使用・保管は避けてください。また、製品を曲げたり、傷つけたり、強いショックを与えたりしないでください。故障・火災・感電の原因となることがあります。
- ・ ACアダプタを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- ・ 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ・ ACアダプタが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ・ ACアダプタの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ・ 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。

プラグ

近くで雷が発生したときは、電源ケーブルやモジュラーケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては装置を破壊し、火災の原因となります。

警告

取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などは、小さなお子様が誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところにおいてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

分解

本製品を勝手に改造しないでください。火災・感電の原因になります。



禁止

- ・ マニュアルに記載されていない AC アダプタは使用しないでください。また、AC アダプタの改造・分解はしないでください。火災・けがの原因となります。
- ・ 使用中の AC アダプタは、布でおおったり、包んだりしないでください。熱がこもり、火災の原因となります。
- ・ 電源プラグを抜くときはケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルの芯線が露出したり切断したりして、火災・感電の原因となることがあります。

指示

- ・ 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。火災・故障の原因となります。
- ・ 本製品をご使用にならない場合は、静電気防止のため付属の梱包袋へ入れて保管してください。

■電池の取り扱いについて



警告

使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところにおいてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



禁止

- ・ マニュアルに記載されていない電池は使用しないでください。電池の破壊、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- ・ 電池はショートしたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてたりしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- ・ 乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

指示

電池を取り付ける場合、極性のプラス（+）とマイナス（-）の向きに注意してください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

梱包物の確認

本製品には以下のものが梱包されています。お使いになる前に必ずご確認ください。万一、足りないものがございましたら、恐れ入りますが担当営業員までお申しつけください。

- サーバ制御ケーブル



- 電源ケーブル



- 取扱説明書（本書）

本書の表記について

■ 本文中の表記

本文中では、以下の表記・記号を使用しています。

サーバ本体

本製品を取り付けるサーバのことです。

👉ポイント

本文中の内容を補足することが書いてあります。

目次

第1章	本製品について	1
第2章	本製品の取り付け	2
	2.1 作業をはじめるまえに	3
	2.1.1 用意するもの	3
	2.1.2 確認すること	4
	2.2 取り付け	5
	2.2.1 PCI カード／内部ケーブルの取り付け	5
	2.2.1.1 サーバ本体への取り付け	6
	2.2.2 AC アダプタの接続	8
	2.2.3 システム資源の設定	9
	2.2.4 ファームウェアのアップデート	10
第3章	ドライバのインストール	12
第4章	対応ソフトウェアについて	13
第5章	LAN／モデムの接続	14
	5.1 LAN ケーブルの接続	14
	5.2 モデムの接続	15
第6章	本製品の取り外し	16
付録		17
	1 SERVICE PROCESSOR TOOL	17
	2 留意事項	24

第 1 章 本製品について

この章は、本製品の特長について解説しています。

本製品は、リモートサービスボードをサーバ本体に取り付け、ご使用になるためのキットです。本製品には、リモートサービスボードとサーバ本体を接続するケーブルが含まれています。

ポイント

リモートサービスボードは、別製品（PG-RSB101）です。

リモートサービスボードについては、リモートサービスボードに添付の取扱説明書を参照してください。

取り付け方法については、本書の「第 2 章 本製品の取り付け」を参照してください。

第2章 本製品の取り付け

この章は、リモートサービスボードおよび本製品のケーブルをサーバ本体に取り付ける方法を説明しています。

リモートサービスボードをご使用になるために、以下の流れ図に従って、リモートサービスボードの取り付け、ServerView のインストール、LAN／モデムの接続を行ってください。

1. 準備
↓ → 「2.1 作業をはじめるまえに」
2. サーバ本体への取り付け
↓ → 「2.2.1 PCI カード／内部ケーブルの取り付け」
→ 「2.2.1.1 サーバ本体への取り付け」
3. AC アダプタの接続
↓ → 「2.2.2 AC アダプタの接続」
4. システム資源の設定
↓ → 「2.2.3 システム資源の設定」
5. ファームウェアのアップデート
↓ → 「2.2.4 ファームウェアのアップデート」
6. ドライバのインストール
↓ → 「3 ドライバのインストール」
7. LAN／モデムの接続
LANを使用する場合 → 「5.1 LAN ケーブルの接続」
モデムを使用する場合 → 「5.2 モデムの接続」

2.1 作業をはじめるまえに

サーバへ取り付ける作業をはじめるまえに、あらかじめ以下の準備を行ってください。

2.1.1 用意するもの

作業をはじめるまえに、以下のものをご用意ください。

- リモートサービスボード
- サーバ本体に添付の PRIMERGY ドキュメント&ツール CD
- ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク
ServerStart CD-ROM から作成します。詳細は、「PRIMERGY ドキュメント&ツール CD 内のソフトウェアガイド」を参照してください。
- Remote Service Board Utility
PRIMERGY ドキュメント&ツール CD から作成します。以下に作成方法を示します。
 - 1 フォーマット済みのフロッピーディスクを 2 枚用意します。
 - 2 ドキュメント&ツール CD 内の次のディレクトリにある全てのファイルを 1 のフロッピーディスクにコピーします。
 <CD-ROM のドライブ>:\%Svmanage%\Tools\RSBFlash\%fpd1
 <CD-ROM のドライブ>:\%Svmanage%\Tools\RSBFlash\%fpd2
 - 3 スタートメニューから、コマンドプロンプト画面を表示します。
Windows NT の場合
 「スタート」 - 「プログラム」 - 「コマンドプロンプト」をクリックします。
Windows 2000 の場合
 「スタート」 - 「プログラム」 - 「アクセサリ」 - 「コマンドプロンプト」をクリックします。
 - 4 fpd2 からコピーしたフロッピーディスクに対して、コマンドプロンプト画面にて、次のコマンドを入力します。
 a: [Enter]
 abset [Enter] (ファイル属性が変更されます。)
 - 5 フロッピーディスクを取り外し、書込み禁止状態とします。


ポイント

Linux システムで Remote Service Board Utility を作成する方法は、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD 内の「ServerView ユーザーズガイド」を参照してください。

2.1.2 確認すること

作業をはじめる前に、以下の事項に該当するかどうかをご確認ください。

- ServerView による電源オン/オフタイマーが有効となっている

 **ポイント**

電源オン/オフタイマーを無効にしてください。

タイマー機能が有効である状態でリモートサービスボードを搭載した場合、以後のタイマー機能が正しく動作しません。タイマー機能を使用する場合には、リモートサービスボードを搭載した後、タイマーを再度設定してください。

電源オン/オフタイマーの設定ウィンドウは、下記手順で開くことができます。

- 1 ServerView により対象サーバの情報を開きます。
- 2 [電源] ボタンをクリックします。

2.2 取り付け

ここでは、リモートサービスボードおよび本製品のケーブルの取り付け手順について説明します。

取り付けをはじめるまえに、本書の「2.1 作業をはじめるまえに」を参照し、必要な作業を行ってください。

2.2.1 PCIカード／内部ケーブルの取り付け

ここでは、リモートサービスボードと本製品のケーブルの取り付け手順を説明します。



感電

本製品をサーバ本体に着脱する際には、安全のためサーバ本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。ACアダプタの電源プラグもコンセントから抜いてください。電源をいれたまま本製品の着脱を行うと、装置の故障・発煙などが起こる可能性があります、また感電の原因となります。

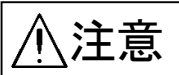


指示

- ・サーバ本体のカバーの取り外し、取り付けを行うときは、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD 内のハードウェアガイドにしたがって作業を進めてください。
 - ・本製品の PCI カードは静電気の影響を受けやすいので、導伝パッドなどの上に置くか、取り外した直後、または取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。
-

2.2.1.1 サーバ本体への取り付け

ここでは、サーバ本体にリモートサービスボードと本製品のケーブルを取り付ける手順を説明します。



注意

指示

サーバ本体のカバーの取り外し、取り付けを行うときは、PRIMERGY ドキュメント&ツールCD内のハードウェアガイドにしたがって作業を進めてください。

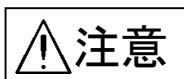
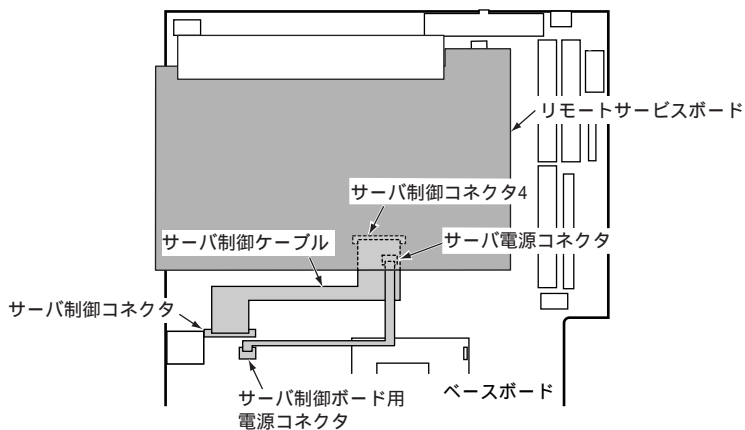
■取り付け手順

1. PRIMERGY ドキュメント&ツール CD 内のハードウェアガイドを参照し、リモートサービスボードと本製品に添付されているケーブル（サーバ制御ケーブル、電源ケーブル）を取り付けます。

👉ポイント

リモートサービスボードを取り付けると、サーバ本体の電源投入後、画面が表示されるまでに1分程度かかることがあります。これは、サーバ本体の BIOS がリモートサービスボードと通信するために、リモートサービスボードが起動するのを待っている場合に発生します。故障ではありませんので、そのままお待ちください。

■サーバ制御ケーブル、電源ケーブルの取り付け例



注意

リモートサービスボードの取り付け位置、および、ベースボード側へのサーバ制御ケーブル、電源ケーブルの取り付け位置は、サーバにより異なります。

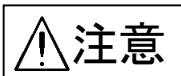
2.2.2 ACアダプタの接続

リモートサービスボードをサーバ本体に取り付け、サーバ本体のカバーを取り付け終わったら、リモートサービスボードのACアダプタを接続します。



禁止

- ・ ACアダプタを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- ・ 濡れた手でACアダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ・ ACアダプタが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ・ ACアダプタの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ・ 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。



禁止

- ・ マニュアルに記載されていないACアダプタは使用しないでください。また、ACアダプタの改造・分解はしないでください。火災・けがの原因となります。
- ・ 使用中のACアダプタは、布でおおったり、包んだりしないでください。熱がこもり、火災の原因となります。

温度

リモートサービスボードのACアダプタは、サーバ本体の動作状態（動作時・休止時）にかかわらず、周囲温度が0～35℃の環境を守ってご使用ください。特に夏場は、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が35℃を超えないようにしてください。温度条件が守られないと、火災・故障の原因となります。

■ 取り付け手順

1. AC アダプタをリモートサービスボードに接続します。
リモートサービスボードに添付の AC アダプタの本体と電源ケーブルを接続し、さらに AC アダプタのプラグをリモートサービスボードの外部電源用コネクタに接続します。
2. AC アダプタの電源プラグをコンセントに接続します。

▶ ポイント

リモートサービスボードは、AC アダプタからの電源供給またはサーバ本体からの電源供給で動作しますが、サーバの電源異常監視を行うために AC アダプタが必要です。信頼性の向上のため、リモートサービスボードの AC アダプタの電源プラグは、サーバ本体の電源プラグを接続した電源とは異なる電源に接続することをお勧めします。

2.2.3 システム資源の設定

リモートサービスボードをサーバ本体に取り付けたあとで、システム資源の設定を確認します。

しかし、本製品に割り付けることができるシステム資源には制約がある場合があります。PRIMERGY ドキュメント&ツール CD 内のハードウェアガイドを参照し、システム資源の割り付けについての制約を確認してください。

さらに、本製品をサーバに取り付けたあとで、本製品に割り付けられたシステム資源を確認し、必要に応じて変更してください。

本製品に割り付けるシステム資源の確認および変更の方法は、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD 内のハードウェアガイドを参照してください。

2.2.4 ファームウェアのアップデート

ここでは、リモートサービスボードのファームウェアのアップデートの手順を説明します。本処理では、アップデートの他に初期設定も行いますので、必ず実施してください。

■アップデート手順

1. 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバ本体の電源を投入します。
2. 表示されるメニューから、「Basic(RAIDUTIL)」を選択し、[Enter]キーを押します。
MS-DOS が起動します。
3. サーバ本体のフロッピーディスクドライブに、1枚目の Remote Service Board Utility をセットします。
4. ファームウェアをアップデートします。
次のコマンドを入力します。
b:\flashrsb [Enter]
アップデート処理中、表示されるメッセージに従ってフロッピーディスクを交換します。
5. アップデートの完了を確認します。
アップデートが正常に完了した場合には、次のメッセージが表示されます。
OK: Firmware flash successfully finished
アップデートが失敗した場合には、次のメッセージが表示されます。
ERROR: Firmware flash failed
6. アップデートが正常に完了した場合には、ファームウェアの版数を確認します。アップデートした版数は、処理開始時のメッセージに表示されています。
MESSAGE: Flash firmware : Version x.x.x.xx
次のコマンドを入力します。版数の参照方法は、本書の『付録 1.3 版数の参照』を参照してください。
b: \sptool [Enter]

■アップデート再実行手順

ファームウェアのアップデートが失敗した場合は、再度ファームウェアのアップデートを実施してください。万が一、サーバ本体が起動しなくなった場合には、以下の作業を実施してください。

1. サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。
2. リモートサービスボードの AC アダプタを取り外します。
3. 10 秒以上経ってから、リモートサービスボードの AC アダプタを接続します。
4. サーバ本体の電源ケーブルを接続し、サーバ本体および周辺装置の電源を投入します。
5. ファームウェアのアップデートを再度実施します。

上記作業を行っても正常に動作しないような場合には、本製品を取り外し、弊社担当保守員にご相談ください。

📌ポイント

ファイル属性の設定を行わずに Remote Service Board Utility を作成した場合、ファームウェアのアップデート時に次のメッセージが表示されます。

ファイル属性の設定を行なった後、再度ファームウェアのアップデートを実施してください。

```
ERROR : File <core.bin> could not be opened!  
ERROR : Firmware flash failed
```

第3章 ドライバのインストール

この章は、リモートサービスボードのドライバのインストールについて説明しています。

リモートサービスボードのドライバは下記のソフトウェアに含まれています。

– ServerView V03.32 以降

👉ポイント

リモートサービスボードのデバイスドライバは、ServerView に含まれています。リモートサービスボードをご使用になる場合、必ずサーバ本体に ServerView をインストールしてください。

Windows 2000 において、OS 起動時にハードウェアの検出ウィザード画面が表示される場合がありますので、次のように処置してください。

- ・「新しいハードウェアの検出ウィザードの開始」が表示された場合 [キャンセル] を選択してください。
- ・「新しいハードウェアの検出ウィザードの完了」が表示された場合 [完了] を選択してください。

すでに上記の ServerView がインストールされている場合、または、上記の ServerView をインストールした後、「留意事項 2.3 ServerView のインストールについて」に記載の処理を行ってください。

ServerView は、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD に収録されています。

ServerView のインストール方法については、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD 内のソフトウェアガイドを参照してください。

ServerView の使用方法については、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD 内の ServerView ユーザーズガイドを参照してください。

第4章 対応ソフトウェアについて

この章は、リモートサービスボードに対応するソフトウェア（ServerView、RemoteControlService）について説明しています。

リモートサービスボードに対応するソフトウェアは、以下の通りです。

ー ServerView V03.32 以降

サーバの状態監視、遠隔操作が行えます。

👉ポイント

リモートサービスボードのデバイスドライバは、ServerViewに含まれています。また、リモートサービスボードによるサーバの状態監視、および、遠隔操作は、ServerViewのエージェントとの連携により実現している処理があります。リモートサービスボードをご使用になる場合、必ずサーバ本体にServerViewをインストールしてください。

ー RemoteControlService V3.06 以降

サーバ本体のPOST時の画面表示、キーボード入力を管理端末から行えます。

👉ポイント

RemoteControlServiceは、BIOSセットアップユーティリティ等を遠隔操作で行いたい場合、管理端末にインストールしてください。

ServerViewとRemoteControlServiceは、PRIMERGYドキュメント&ツールCDに収録されています。

👉ポイント

V2.05以前のRemoteControlServiceが既にインストールされている場合、アンインストールしてからV3.00以降のRemoteControlServiceをインストールしてください。

ServerView、RemoteControlServiceのインストール方法については、PRIMERGYドキュメント&ツールCD内のソフトウェアガイドを参照してください。

ServerView、RemoteControlServiceの使用方法については、PRIMERGYドキュメント&ツールCD内のServerViewユーザーズガイドを参照してください。

第5章 LAN／モデムの接続

この章は、リモートサービスボードに LAN およびモデムを接続する方法を説明しています。

リモートサービスボードに LAN、モデムを接続することにより、管理端末からリモートサービスボードにアクセスしてサーバを制御したり、リモートサービスボードから異常通知（SNMP トラップ、E-mail、ポケットベル）を送信したりできるようになります。



注意

リモートサービスボードには、下記のユーザアカウントが初期設定されています。運用を始める前に、必ずパスワードを変更してください。変更方法は、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD 内の ServerView ユーザーズガイドを参照してください。

ユーザ名 : root パスワード : fsc

ポイント

LAN ケーブル、モデムおよびモデム用 RS-232C ケーブルはオプションです。本製品には含まれません。

5.1 LANケーブルの接続

ここでは、リモートサービスボードに LAN ケーブルを接続する手順を説明します。

ポイント

リモートサービスボードには、以下の IP アドレスが初期設定されています。リモートサービスボードをネットワークに接続する前に、必要に応じて IP アドレスを変更してください。

変更方法については、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD 内の ServerView ユーザーズガイドを参照してください。

IP アドレス : 192.168.0.10
サブネットマスク : 255.255.255.0

■取り付け手順

1. LAN ケーブルをリモートサービスボードに接続します。
用意した LAN ケーブルのコネクタを、リモートサービスボードの 10/100BASE-TX コネクタに接続します。
2. もう片方のコネクタを、ハブやルータなどに接続します。

5.2 モデムの接続

ここでは、リモートサービスボードにモデムを接続する手順を説明します。



感電

接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。感電の原因となります。

■取り付け手順

1. RS-232C ケーブルをリモートサービスボードに接続します。
RS-232C ケーブルのコネクタ（9 ピン）を、リモートサービスボードのシリアルポートコネクタに接続します。
2. RS-232C ケーブルをモデムに接続します。
モデムの取扱説明書を参照し、もう片方のコネクタを、モデムに接続します。
3. 電話回線ケーブルをモデムに接続します。
モデムの取扱説明書を参照し、電話回線モジュラーコンセントに接続された電話回線ケーブルの、もう片方のコネクタをモデムの LINE 端子に接続します。
4. モデムの電源を接続します。
モデムの取扱説明書を参照し、モデムの電源（モデムに添付の AC アダプタ）をモデムに接続します。

▼ポイント

無停電電源装置をご使用になっている場合は、停電時の通信を可能にするために、モデムの電源プラグを無停電電源装置に接続することをお勧めします。

第6章 本製品の取り外し

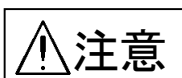
この章は、リモートサービスボードの取り外し手順について説明しています。



感電

リモートサービスボードを取り外すときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。リモートサービスボードの AC アダプタも取り外してください。

感電の原因となります。



指示

- ・サーバ本体のカバーの取り外し、取り付けを行うときは、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD 内のハードウェアガイドにしたがって作業を進めてください。
- ・リモートサービスボードは静電気の影響を受けやすいので、導電パッドなどの上に置くか、取り外した直後、または取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。

■取り外し手順

1. サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。
2. リモートサービスボードの AC アダプタを取り外します。
LAN ケーブル、モデムが接続されている場合は、取り外します。
3. サーバ本体のカバーを取り外し、リモートサービスボードと本製品のケーブルをサーバ本体から取り外します。
4. 保管しておいたスロットカバーを取り付けます。
5. 取り外したサーバ本体のカバーを取り付けます。

👉ポイント

リモートサービスボードを取り外しても、ServerView（デバイスドライバ含む）、RemoteControlService をアンインストールする必要はありません。

付録

1 SERVICE PROCESSOR TOOL

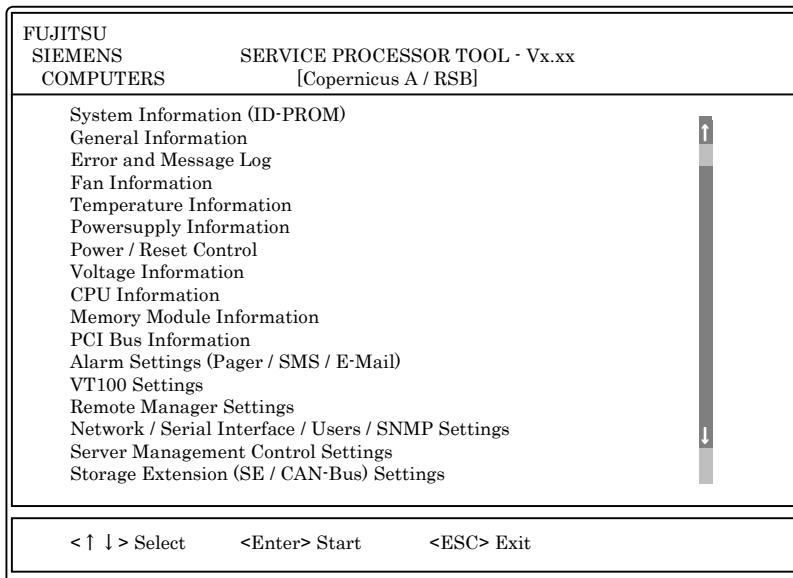
ここでは、Remote Service Board Utility に含まれる SERVICE PROCESSOR TOOL を使用して、リモートサービスボードに格納されるログの参照／保存／消去、および、版数の参照を行う方法について説明します。

1.1 SERVICE PROCESSOR TOOLの起動と終了

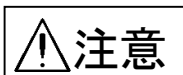
■ SERVICE PROCESSOR TOOL の起動手順

1. 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバ本体の電源を投入します。
2. 表示されるメニューから、「Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter]キーを押します。
MS-DOS が起動します。
3. サーバ本体のフロッピーディスクドライブに、Remote Service Board Utility をセットします。
4. 次のコマンドを入力します。
SERVICE PROCESSOR TOOL が起動します。

```
b:\sptool    [Enter]
```



5. [↑]または[↓]キーで各項目を選択して[Enter]キーを押すと、各項目の画面が表示されます。



注意

SERVICE PROCESSOR TOOL では、以下の項目だけ使用できます。

- ・ Error and Message Log
- ・ General Information

その他の項目は、動作を保証しません。使用しないでください。

SERVICE PROCESSOR TOOL のメニュー画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
[↑]、[↓]	メニュー項目を選択します。
[Enter]	選択した項目を実行します。
[Esc]	SERVICE PROCESSOR TOOL のメニュー画面を終了し、起動画面に戻ります。

■ SERVICE PROCESSOR TOOL の終了手順

1. SERVICE PROCESSOR TOOL のメニュー画面で[Esc]キーを 1 回押します。DOS のプロンプトが表示され、フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていたら、電源切断を行ってもかまいません。

1.2 エラーログ／メッセージログの参照／保存／消去

エラーログ／メッセージログの参照／保存／消去は、ERROR AND MESSAGE LOG 画面で行います。

■ ERROR AND MESSAGE LOG 画面の起動手順

1. SERVICE PROCESSOR TOOL を起動します。
2. 「Error and Message Log」を選択し、[Enter]キーを押します。ERROR AND MESSAGE LOG 画面が表示されます。

FUJITSU SIEMENS COMPUTERS	ERROR AND MESSAGE LOG
Found 3 Errors and 7 Messages	
<F1> View ErrorLogSelect <F4> Clear Logs	<F2> View MessageLog <F3> Write to file <ESC> Exit

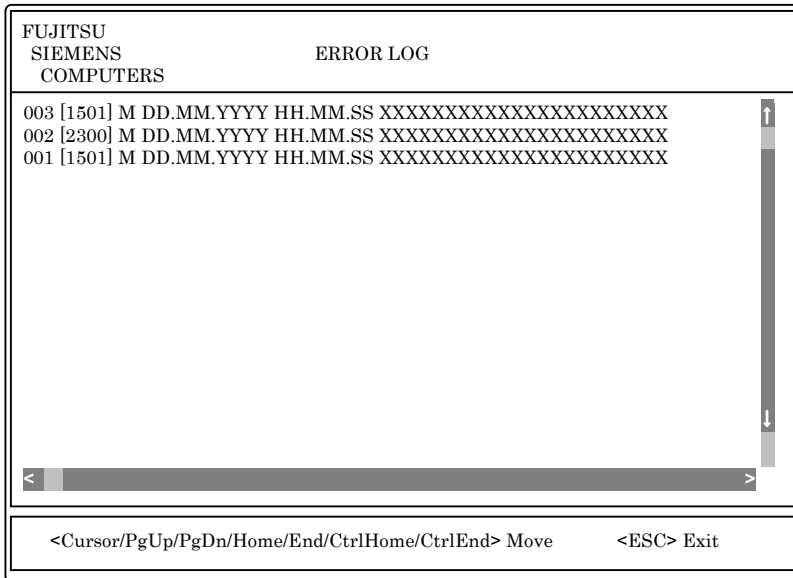
ERROR AND MESSAGE LOG 画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
[F1]	エラーログを表示します。
[F2]	メッセージログを表示します。
[F3]	ログを保存します。
[F4]	ログを消去します。
[Esc]	ERROR AND MESSAGE LOG 画面を終了し、SERVICE PROCESSOR TOOL のメニュー画面に戻ります。

■ エラーログの表示

エラーログとは、システム内で発生した異常を格納するログです。

エラーログは、ERROR AND MESSAGE LOG 画面で、[F1]キーを押すと表示されます。

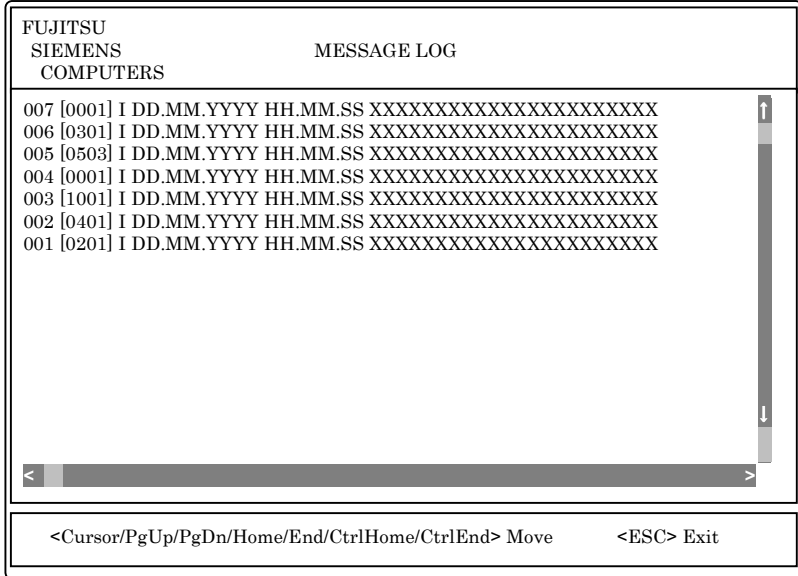


ERROR LOG 画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
[↑]、[↓]、[←]、 [→]、[PageUp]、 [PageDown]、 [Home]、[End]、 [Home]+[Ctrl]、 [End]+[Ctrl]	画面をスクロールします。
[Esc]	ERROR LOG 画面を終了し、ERROR AND MESSAGE LOG 画面に戻ります。

■ メッセージログの表示

メッセージログとは、システム内で発生したイベントを格納するログです。メッセージログは、ERROR AND MESSAGE LOG 画面で、[F2]キーを押すと表示されます。



MESSAGE LOG 画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
[↑]、[↓]、[←]、 [→]、[PageUp]、 [PageDown]、 [Home]、[End]、 [Home]+[Ctrl]、 [End]+[Ctrl]	画面をスクロールします。
[Esc]	ERROR LOG 画面を終了し、ERROR AND MESSAGE LOG 画面に戻ります。

■ ログの保存

1. ERROR AND MESSAGE LOG 画面で、[F3] キーを押します。
2. サーバ本体のフロッピーディスクドライブにセットした、Remote Service Board Utility を一旦取り出します。
3. フォーマット済みのフロッピーディスクを用意して、サーバ本体にセットします。
4. ログを保存するファイルのファイル名を入力します。
以下のように入力して、[Enter] キーを押します。

b:\xxxxxxxx.xxx

xxxxxxxx.xxx には任意のファイル名を指定できます。

5. フロッピーディスクに、手順3で指定したファイル名でログが保存され、次の画面が表示されます。

FUJITSU SIEMENS COMPUTERS
Log File has been written correctly.
Press any key

6. いずれかのキーを押します。
ERROR AND MESSAGE LOG 画面に戻ります。
7. SERVICE PROCESSOR TOOL を終了する場合は、[Esc] キーを2回押し
て SERVICE PROCESSOR TOOL を終了します。
SERVICE PROCESSOR TOOL を続けて使用する場合は、フロッピーディス
クをサーバ本体から取り出し、Remote Service Board Utility をセットします。

■ ログの消去

エラーログやメッセージログがいっぱいになると、古いログから順番に新しいログで上書きされるため、定期的エラーメッセージやメッセージログを確認し、必要に応じてログを保存/消去してください。

ログは、ERROR AND MESSAGE LOG 画面で、[F4]キーを押すと消去できます。

1.3 版数の参照

版数の参照は、GENERAL INFORMATION 画面で行います。

■ GENERAL INFORMATION 画面の起動／表示

1. SERVICE PROCESSOR TOOL を起動します。
2. 「General Information」を選択し、[Enter]キーを押します。
GENERAL INFORMATION 画面が表示されます。

FUJITSU SIEMENS COMPUTERS	GENERAL INFORMATION
Local Cabinet Number (hex) : 0000	
Service Processor Firmware Version: 0.2.1.73	
Service Processor Model / Product Name: RSBA_Primergy	
Service Processor Product Version: eRMC Rev. C	
Service Processor Manufacturer: FSC	
Press any key	

GENERAL INFORMATION 画面での表示内容を以下に示します。

表示	内容
Local Cabinet Number(hex)	キャビネット番号を示します。
Service Processor Firmware Version	ファームウェアの版数を示します。
Service Processor Model/Product Name	製品名を示します。
Service Processor Product Version	ハードウェアの版数を示します。
Service Processor Manufacturer	製造メーカーを示します。

2 留意事項

ここでは、リモートサービスボードをご使用になる上での留意事項について説明します。

2.1 電圧・温度センサ番号について

リモートサービスボードの電圧・温度センサ番号は、0 から割振ります。

このため、関連ソフトウェア（ServerView、RemoteControlService、Web Interface）で表示するサーバ本体の電圧・温度センサ番号、および、エラーメッセージ内の電圧・温度センサ番号は、リモートサービスボードの分をシフトしています。

電圧番号 : 4

温度センサ番号 : 1 または 3

下記は、リモートサービスボード搭載の有無による表示例です。

■本ボード未搭載時

[電圧]		[温度センサ]	
番号	名称	番号	用途
0	CPU0	0	housing
1	CPU1	1	CPU
:	:	:	:

■本ボード搭載時

[電圧]		[温度センサ]	
番号	名称	番号	用途
0	RSB ExtPower	0	housing (本ボード上の温度)
1	RSB PCI Power	1	housing
2	RSB AUX Power	2	CPU
3	RSB Main Power	:	:
4	CPU0	:	:
5	CPU1	:	:
:	:	:	:

または

[電圧]		[温度センサ]	
番号	名称	番号	用途
0	RSB ExtPower	0	RSB Inhouse (本ボード上の温度)
1	RSB PCI Power	1	Battery
2	RSB AUX Power	2	Battery Board
3	RSB Main Power	3	housing
4	CPU0	4	CPU
5	CPU1	:	:
:	:	:	:

2.2 初期設定について

リモートサービスボードを搭載した場合、設定が次のようになります。

- ServerView の設定によるソフトウェアウォッチドック : 無効
- ServerView の設定による電源オン/オフタイマー : 無効

2.3 ServerViewのインストールについて

ServerView をインストールした直後、または、リモートサービスボードを搭載した直後の OS 起動時に、リモートサービスボードが ServerView に認識されない場合があります。下記の手順に従い、確認・再認識・再インストールの処理を行ってください。

ポイント

OS が Linux の場合には、本処理を行う必要はありません。

■ リモートサービスボードの確認

下記手順により、リモートサービスボードが ServerView に認識されていることを確認します。

1. [スタート] - [プログラム] - [Fujitsu ServerView] - [Fujitsu ServerView] をクリックし、ServerView を開きます。
2. “サーバの一覧ウインドウ” から対象装置のサーバを選択し、ダブルクリックします。
3. “ServerView ウインドウ” の各ボタンが有効であることを確認します。ServerView の初期処理に数分かかることがあります。[更新] ボタンをクリックして、各ボタンが有効になるまで待ちます。
4. [アクション] ボタンをクリックします。

5. “アクションウィンドウ”の [RSB] ボタンが無効である場合、《リモートサービスボードの再認識処理》を行います。

■ リモートサービスボードの再認識処理

下記手順により、リモートサービスボードの再認識処理を行います。

- 1) OS を再起動します。
- 2) 《リモートサービスボードの認識》を行います。
なお、この再認識処理を行った後、リモートサービスボードが認識されていない場合には、《ドライバの再インストール》を行います。

■ ドライバの再インストール

下記手順により、ドライバを再インストールします。

- 1) 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。
- 2) 実行中のアプリケーションを全て終了させます。
- 3) PRIMERGY ドキュメント&ツール CD から、以下を起動します。この処理によりエージェントがアンインストールされます。
<CD-ROM のドライブ> : ¥Svmanage¥Japanese¥Unagent.exe
- 4) システムを再起動します。
- 5) PRIMERGY ドキュメント&ツール CD から、以下を起動します。
<CD-ROM のドライブ> : ¥Svmanage¥Tools¥Addagent.exe
- 6) 「Agent Installation Actions」ダイアログボックスが表示されます。
- 7) 同時にインストールする他のエージェントを選択し、[OK] をクリックします。この処理により、デバイスドライバを含んだエージェントがインストールされます。デバイスドライバは、“Install ServerView agent”に含まれています。
デバイスドライバのインストールは、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD 内の ServerView ユーザーズガイドにある“インストール” – “オプション装置の追加インストール処理”も併せて参照してください。
- 8) 《リモートサービスボードの確認》を行います。
なお、この再インストール処理を行った後、リモートサービスボードが認識されていない場合には、弊社担当保守員にご相談ください。

PRIMERGY
リモートサービスボード搭載キット
(PG-RSBOP8)
取扱説明書

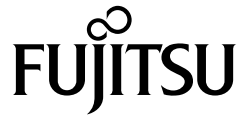
B7FY-0721-01

発行日 2002年12月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。



このマニュアルは再生紙を使用しています。